

シェイクスピア・フローラ（1）

金城盛紀

Summary

Shakespeare's Flora

Seiki Kinjo

This is the first installment of the project which will deal with all the plants, amounting to about one hundred sixty, mentioned by Shakespeare. Each plant is duly identified and described, and, whenever appropriate, attention is paid to the author's literary treatment of the flowers and plants. Shakespeare goes further than casual and simply realistic use of flowers. He often closely associates them with his characters and even makes them embody dramatic meanings in some of his plays.

A list of plants alluded to by Shakespeare, with their names (Shakespearean, current English, Japanese, and scientific) and the specific references to the canon, will be provided in the last installment. It is also hoped that photographic illustrations will be provided in a later version of this study.

『シェイクスピア花苑』(1990年, 世界思想社)において, 私はシェイクスピアが言及した植物25種を選び, それぞれについて簡単に説明を行ったうえ, いかに関わり, いかなる意味づけがなされているか, 作品のテーマも視野に入れて考察をした。しかし, シェイクスピアに現れる植物はおよそ160種もある。その中には文学的なあるいは演劇的な興味を誘うわけでもない種類も多いが, 一見何げなく出ている植物にも作品の根幹とかかわっていたり, あるいは表現の妙にあらためて感嘆せざるを得ないものも少なくはない。また, 辞書や植物図鑑に頼るだけではもうひとつ分かりにくいものも無しとしない。『シェイクスピア花苑』に寄せられた声援に励まされて, 詩人・劇作家が言及した残りの植物すべてについて簡略なコメントを試みてみたい。取りあげる順序は, 植物の日本語名の五十音順にするが, 最後に日本語名はもちろんのこと, シェイクスピアが用いた名称, 現在の英語名からも検索できるようインデックスを付する予定である。番号と名称のみ示されている植物は前掲書でやや詳しく扱っているのでそれを参照されたい。

なお, 見出しの植物名およびシェイクスピアからの引用は G. Blakemore Evans ed. *The Riverside Shakespeare* (1974) による。

1 アカスグリ CURRANT

英名 Red Currant, Common Currant

和名 アカスグリ (赤酢塊), フサスグリ (房酢塊)

学名 *Ribes rubrum*

西ヨーロッパ原産の落葉低木。黄緑色の小さい花が4~5月に咲き, 実は赤くなる。イギリスには16世紀に紹介された。現在, 栽培品種も多く, 実はパイやジャムにされる。

Theseus Since that our theme is haste,

I stamp this kiss upon thy currant lip.

The Two Noble Kinsmen, 1. 1. 216

シーシアス 事は急を要するから

あなたの赤い唇にこの口づけを残すだけにしておく。

『血縁の二公子』

アテネの公爵シーシアスはアマゾンの女王ヒポリタとの婚礼の式を挙げようとする時に, テーベ攻略への出陣を余儀なくされる。婚礼を凱旋するまでお預けにするわけだが, 残るヒポリタの唇の美しさがアカスグリの鮮やかな赤色で表現されている。アカスグリの花ことば「あなたのしかめ顔はわが身の破滅」がもし当時からあったとすれば, 結婚式を延期しても赤い唇をとがらさないで見送ってほしい, と思う公爵の心情も託されていることになる。なお, 原文の

植物名には「通貨」、動詞「残す」には「硬貨を鑄造する」という意味もある。

2 アサ HEMP

英名 Hemp, India Hemp, Marijuana

和名 アサ (麻), タイマ (大麻)

学名 *Cannabis sativa*

アサ科の一年草(クワ科とする説も根強く残る)。雌雄異株。中央アジア原産で、昔から繊維の原料として栽培され、織物、ロープ、漁網などに使われてきた。昨今は、穂や葉に含まれる幻覚物質を利用した麻薬として有名になっているが、この悪習がアフリカからヨーロッパに伝わったのは19世紀に入ってからで、シェイクスピアとは無縁。

Pistol Let gallows gape for dog, let man go free,
And let not hemp his windpipe suffocate.

Henry V, 3. 6. 43

ピストル 絞首台は犬を殺せ。人間様は放っておけ
麻縄で人の喉笛をしめるとはとんでもない。

『ヘンリー五世』

ピストルはヘンリー五世についてフランス進攻に加わった軍人で、国王が皇太子だった時の飲み友達。彼は親友が窃盗罪で絞首刑にされて、息巻いている。この例が示すように、シェイクスピアのアサは、「アサの種」以外はすべて「麻縄」として出る。一般に麻縄が絞首刑のロープとして使われたので、「アサ」は絞首刑の代名詞にもなった。

3 アザミ THISTLE

英名 Thistle

和名 アザミ (薊)

学名 *Cirsium* (属)

キク科の多年草で、北半球に広く分布し、約250種ある。葉に刺があり、花は紅紫色が多い。アザミはスコットランドの紋章となったが、それはオオヒレアザミ属であるとする意見が有力のようだ。サントリソウ (Holly Thistle) 参照。

Bottom Mounsieur Cobweb, ... kill me a a red-hipp'd humble-
bee on the top of a thistle; and, good Mounsieur, bring me the
honey-bag.

A Midsummer Night's Dream, 4. 1. 12

ボトム ムッシュー蜘蛛の巣, ... アザミの花のてっぺんにとまって

いる赤い尻のマルハナバチを殺してくれないか。いいか、ムッシュー。
その蜜の袋をもってきてくれ。

『夏の夜の夢』

妖精の王妃に愛される職人ボトムが、妖精たちにかしずかれて夢心地になっている場面。シェイクスピアはハチがアザミの花を好む習性をよく知っていた。

アザミはスコットランドの紋章にもなった由緒ある植物だが、ジョンソン博士が「コムギ畠の刺のある雑草」と定義したように、手入れのよくない肥沃な土地によく茂るやっかいな雑草と考えられていた。「創世記」には、原罪を犯した罰として「土は茨とアザミを生えいでさせる」とある。だから、戦争によって荒廃した祖国フランスを嘆く次ぎのせりふで、ブドウの木も枯れはてた荒地にはびこる、いやな雑草の一つとしてアザミが出てくる。

Burgundy Conceives by idleness, and nothing teems

But hateful docks, rough thistles, kecksies, burs.

Henry V, 5. 2. 52

バーガンディ 手入れもされず、茂るものは
忌まわしいギシギシ、荒々しいアザミ、ドクニンジン、いがだらけ
の雑草のみ。

『ヘンリー五世』

4 アシ REED

英名 Reed, Grass

和名 アシ (葦・蘆), ヨシ (葦・蘆)

学名 *Phragmites australis*, (*P. communis*)

イネ科の多年草。水湿地に自生し、世界で最も分布の広い植物とされる。高さ1~3メートルに達し、茎の先端に花をつける。シェイクスピアがなれ親しんだエイヴォン川の辺には今も茂っている。ギリシア神話にも現れるが、葦原の瑞穂の国として謳われてきた日本では『古事記』の天地創造神話にみえる。アシが「悪し」に通じるので「ヨシ(良し)」に言い換えられる。シェイクスピアでは、「アシ」はいくつかの水草をさす一般名としても使われている。

Hotspur ... swift Severn's flood, ...

Ran fearfully among the trembling reeds.

1 Henry IV, 1. 3. 105

ホットスパー 速いセヴァンの川水は
ふるえおののくアシの間をおどおどと流れ去った。

『ヘンリー四世 第一部』

川辺の風にそよぐ弱いアシの生態が、二人の武将の血みどろな一騎打ちの情景描写の一部となっている。

2. Servant I had as live have a reed that will do me no service as a partisan
I could not heave.

Antony and Cleopatra, 2. 7. 12

召使い 2 持ち上げられない大槍よりは、役には立たないアシー本のほうがよい。
『アントニーとクレオパトラ』

アシは弱いだけでなく、無益の象徴でもある。「汝にはアシもオークも変わりなし」(『アントニーとクレオパトラ』)とは、死んだ者には、弱く無益なアシも堅固有益なオークも同じという意味である。しかし、アシが屋根をふくのにも使われたことは「アシぶきの屋根から落ちる冬の滴」(『あらし』)でも明らかである。シェイクスピアのアシは、聖書「イザヤ書」の慈悲「傷ついた葦を折ることなく」からも、パスカルの「人間は考える葦」からも、また万葉の叙情からも遠いようである。

5 アネモネ ANEMONE

英名 Anemone, Wood Anemone, Wind Flower

和名 アネモネ、ヤブイチゲ(藪一花)

学名 Anemone (nemorosa)

キンポウゲ科の多年草で、ヨーロッパからアジア東北部にかけて分布する。花は萼が花弁状になって白色だが、赤みや青みが入ったのも少なくない。落葉樹林下に自生するが、園芸品種も多い。シェイクスピアのアネモネはその品種まで確定することは不可能(また、不必要)で、ヨウシュウオキナグサ (*Anemone plusatilla*) の可能性もある。

By this the boy that by her side lay kill'd
Was melted like a vapor from her sight,
And in his blood that on the ground lay spill'd,
A purple flow'r sprung up, check'ed with white,
Resembling well his pale cheeks and the blood
Which in round drops upon their whiteness stood.

Venus and Adonis, 1168

そのとき、女神のそばに死んで臥せていた少年は
彼女のところから蒸気のように溶けうせ、
大地に流れた彼の血潮から
白い斑の入った赤い花が咲き出た、
それは彼の白い頬と、その白さの上に

玉とこぼれる血さながら。

『ヴィーナスとアドーニス』

愛の女神ヴィーナスは美少年アドーニスを熱愛する。しかし、少年はヴィーナスの秘術をつくした求愛を拒み、狩りに出て猪に殺される。少年が流した血潮から萌え出た花が何であるか、シェイクスピアは特定しない。しかし、この叙述がオヴィディウスの『変身物語』に集大成されたローマ神話に基づいているのは明らかで、その神話ではアドーニスの血が変じた花はアネモネである。「ヴィーナスの花」としても知られるこの花を植物学的に同定するよりも、詩人の関心は赤と白の象徴的色彩の対照にあって、奔放な情念の赤、肉体美の白がくり返し語られていることに留意したい。

6 アブシント WORMWOOD

英名 Common Wormwood, Absinthe

和名 アブシント、ニガヨモギ（苦蓬）（通称）

学名 *Artemisia absinthium*

ヨーロッパ原産のキク科の多年草。独特の香りと苦味が強いハーブで、黄色の花が7~10月に咲く。イギリスには1548年に紹介された。日本には明治初期に入ったが、「ニガヨモギ」の名称は『草木図説』から誤ってつけられたとされる。アブサンやベルモット酒の材料となり、また薬草としても古くから栽培されている。

Nurse For I had then laid wormwood to my dug,

.....

When it did taste the wormwood on the nipple

Of my dug and felt it bitter, pretty fool,

To see it teachy and fall out wi' th' dug!

Romeo and Juliet, 1. 3. 26, 30

乳母 ちょうどあの日、私は乳首にニガヨモギを塗りましてね、.....

お嬢さまが乳首についたニガヨモギをなめますと

とても苦かったんでしょう、かわいそうに

ひどくおむつかって、私の乳首をお叱りになるんですよ。

『ロメオとジュリエット』

ニガヨモギは文字どおり苦い。「ニガヨモギのように苦い」という古い俚諺もある。その苦い汁をジュリエットの乳母が乳首に塗って、ジュリエットを乳から離そうとした。ジュリエットは三歳になろうという時だから、今日の基準でいえば大分おそい乳離れではあるが、シェイクスピアの時代には離乳は生後一年半から二年の間に行うのがよいとされていた。“Thy sug' red tongue to wormwood taste”（「甘味は苦味と転ず」『ルクリースの凌辱』）では、ニガヨモギの

いやな味が甘くおいしい味と対比されている。

ニガヨモギは「苦々しいもの、不快なもの」のメタファーとしても使われている。“... weed this wormwood from your fruitful brain”（「実り豊かなあなたの頭からニガヨモギを取り除く」『恋の骨折り損』）とは、頭はいいが皮肉や毒舌で他人を傷つけて自己陶酔する青年をたしなめるせりふである。

なお、ニガヨモギが「ダイアナの花」であるとする説もあるが、そのことについては前掲書イタリアニンジンボクの項を参照。

7 アマ FLAX

英名 Flax

和名 アマ（亜麻）

学名 *Linum usitatissimum*

原産地としては中央アジアが有力のアマ科の一年草。花は青色の五弁で、7～8月に咲く。茎からとる繊維織物はリネン（リンネル）として重宝されてきた。古代エジプトでミイラの布として利用され、ヨーロッパではアマの生産は羊毛生産と競合した時代もあった。種子からとる亜麻仁油は薬用などに利用されてきた。日本には17世紀に渡来。

Young Clifford And beauty, that the tyrant oft reclaims,
Shall to my flaming wrath be oil and flax.

2 Henry VI, 5. 2. 55

クリフォードの息子 美は暴君の心を和らげるといが、
おれの燃えさかる怒りには油とアマとなるぞ。

『ヘンリー六世 第二部』

戦死した父親の姿を見て復讐の鬼と化す青年貴族のせりふである。アマ（とくにその繊維）が油と同列にされるほどの可燃物としてよく知られていた事実を物語る。

3 Servant I'll fetch some flax and whites of eggs
To apply to his bleeding face.

King Lear, 3. 7. 106

召使い3 おれはリンネルと卵の白身を取ってくる、
あの血まみれのお顔の手当をするのだ。

『リア王』

コーンウォール公爵は無残にもグロスター伯の両眼をつぶすが、公爵の召使いは犠牲者に同情する。リンネルはアマ繊維の布で、それに卵の白身をつけたのは止血に用いられていた。ほかにアマは5回の言及があるが、鑑賞の対象としてその美しい花が語られることは皆無。

8 アーモンド ALMOND

英名 Almond

和名 アーモンド, ヘントウ (扁桃)

学名 *Prunus dulcis*

原産地は中央アジアと推定されているバラ科サクラ属の落葉性果樹。モモの近縁種で、葉・花・果実はモモに似て、花卉は淡紅色または白色。核の中の仁を食用とする。古代ギリシアやローマでもよく知られ、イギリスへは古代ローマ人が伝えたと言われる。日本には明治の初めに導入されたが、風土に適せず栽培は普及しなかった。

Thersites The parrot will not do more for an almond than he for
a commodious drab.

Troilus and Cressida, 5. 2. 193

サーサイティーズ オウムがアーモンドにとびつく以上に、あいつは
いいなりになる淫売女に夢中になる。

『トロイラスとクレンダ』

アーモンドは聖母マリアの花とされ、シェイクスピアの時代にはその花も実もロンドンを飾った果樹である。しかし、その作品に現れるのは美しい花ではなく、おしゃべりで好色な鳥オウムの好む実として言及したこの1回きりである。当時、ペットのオウムが「言葉」をさえずればその褒美として好物のアーモンドをやっていたようで、「オウムにアーモンド」は成句になっていた。毒舌家サーサイティーズの罵倒は次のように続く——「色欲だ、色欲だ、いつも戦争と女だ。はやるものなんてほかにありやしない。」

9 アロエ ALOE

英名 Aloe

和名 アロエ, ロカイ (蘆薈)

学名 *Aloe* (属)

ユリ科アロエ属。多肉多汁の低木または高木状植物。南アフリカを中心に広く分布し、約300種が知られる。アロエは「苦み」を意味するアラビア語に由来するが、この苦みの強い植物は古代ギリシアの昔から下剤など薬用として使用された。日本でも「医者いらず」の俗名が示すように、胃腸、便秘、外傷の民間薬として用いられてきた。

Love's arms are peace, 'gainst rule, 'gainst sense, 'gainst shame,
And sweetens, in the suffering pangs it bears,
The aloes of all forces, shocks, and fears.

Lover's Complaint, 273

愛の腕は規則、分別、恥辱に打ち勝つ平和、
愛はそれが受ける苦痛に耐えつつ
あらゆる暴力、衝突、恐怖というアロエのような苦い薬を甘くする。

『恋人の嘆き』

『恋人の嘆き』は偽作の疑いをかけられてきた329行の物語詩であるが、近年はシェイクスピアの作品として認められる傾向にある。純情な乙女をくどく男のせりふは、「暴力、衝突、恐怖」といった乙女が嫌悪するものをアロエの苦みで表す。その嫌悪の対象であるが避けられない苦いアロエを愛が甘い良薬に変える、と甘言をつくし、男は後に引かず目的を果たす。

10 アンズ APRICOCK

英名 Apricot

和名 アンズ (杏)

学名 *Prunus armeniaca*

バラ科サクラ属の落葉果樹。高さ5~10メートルになる。花は淡紅色で葉がでる前に咲く。果実は橙黄色となり、乾果、シロップ漬、ジャムなどに加工される。原産地の中国よりペルシア、アルメニアを経てヨーロッパへ伝わったが、その経路が学名(アルメニアカ)に表れている。アメリカには18世紀にヨーロッパから渡来したが、現在カリフォルニア州が世界一の産地になっている。日本には東アジア系品種が古い時代に伝わり、主に甲信越と東北地方で栽培されている。

Gardner Go bind thou up young dangling apricocks,
 Which like unruly children make their sire
 Stoop with oppression of their prodigal weight.

Richard II, 3. 4. 29

庭師 おい、あのぶらさがっているアンズの実を縛ってくるんだ。
 手に負えねえ餓鬼どもみたいに、放蕩の重みで親である枝を
 たわめ困らせやがる。

『リチャード二世』

枝もたわわに実るアンズを見て、庭師は親を困らす手に負えない息子たちを連想する。この連想は、庭の手入れが国の政治のたとえとなって語られる。

ハムレットがデンマークを「雑草がはびこる庭」と嘆いたように、国家を庭園になぞらえるのは常套である。庭では雑草を抜き、肥料を与え、その果樹は剪定を行わなければならない。同様に、国の庭師として国王は国の管理に手を抜いてはならない。この手入れを怠ったリチャード二世は没落する。シェイクスピアは庭師の仕事も国王の責務もともによく知っていた。

アンズがイギリスへもたらされたのはヘンリー八世の時代といわれるが、もしそれが事実な

らば、それより100年もさかのぼるこの場面は作者の時代錯誤ということになる。

『夏の夜の夢』では、アンズは妖精の王妃がその愛人をもてなすごちそうとして、デューベリーやブドウなどと提供される。

11 イタリアニンジンボク DIAN'S BUD (省略)

12 イ RUSH

英名 Rush, Common Rush

和名 イ (藎), イグサ (藎草), トウシンソウ (灯心草)

学名 *Juncus effusus*

イグサ科イグサ属の多年草。水湿地に自生する。高さ50～150センチ。葉は退化し、茎の基部で鞘状となる。イグサ科は約9属400種あり、その最大のイグサ属には約220種あって世界中に分布している。また、シェイクスピアは水辺に生えるイグサに類似するほかの植物も「イグサ」と呼んでいる。日本では栽培され、その9割が畳表になる。

Grumio Is supper ready, the house trimm'd, rushes strew'd, cobwebs swept, ... the servingmen in their new fustian?

The Taming of the Shrew, 4. 1. 46

グルーミオ 夕飯の用意はできているか、家は片づいているか、床にはイグサを撒いてくもの巣は払ってあるか、... 召使いどもは新しいお仕着せをきているか？

『じゃじゃ馬ならし』

新婚の主人は花嫁をつれて帰宅する。その主人を迎える準備は万端か、と尋ねるセリフであるが、イグサを床に撒くのはイギリスの古い習慣であった。エリサベス一世の謁見の間にも、民家の床にも撒いた。湖水地方にあるワーズワスが通った教会では今日でも特定の日にはイグサを撒いている。ハル王子がヘンリー五世となった戴冠式の行列にもイグサが撒かれたが、これは現在なら赤絨毯というところか。イグサはその髓を獣脂に浸して灯心草ロウソク (rush-candle) がつくられたが、その例は「太陽も主人がロウソクと言えはロウソク」(『じゃじゃ馬ならし』)に見られる。最初のグローブ座が焼失したのは、『ヘンリー八世』上演の際、イグサぶきであったその屋根に芝居の砲弾によって引火したためである。

13 イチゲサクラソウ PRIMROSE (省略)

14 イチジク FIG

英名 Fig

和名 イチジク（無花果）、トウガキ（唐柿）

学名 *Ficus carica*

クワ科の落葉半高木。アラビヤ半島南部を原産地とし、世界最古の栽培果樹の一つ。花は花囊の中にできて外見上は見えないまま果実になるから、「無花果」と表記される。その果実は生で食べるほか、菓子、ジャムなどになる。平和、豊饒のシンボルとなり、また、欲望とも関連されてきた。イギリスには16世紀、日本には18世紀に入った。

Charmian O, excellent, I love long life better than figs.

Antony and Cleopatra, 1. 2. 32

チャーミアン まあ、素晴らしい！わたしイチジクより長生きのほうが好き。

『アントニーとクレオパトラ』

豊饒や性のイメージをもち、有史以前より重宝されてきたイチジクが、長命と比べられる。もう若くはない男と女の命をかけた愛欲のドラマに響く基調音である。クレオパトラがアントニーの後を追って自害するときに使われるコブラは、イチジクの実と葉の下に潜ませて持ち込まれる。

エジプトの女王にも、また『夏の夜の夢』で妖精の王妃が愛人をもてなすにも、ふさわしい貴重な果物である。歴史劇（『ヘンリー四世 第二部』など）では、イチジクは猥雑な軽蔑のしぐさを表すものとして言及される。『オセロ』では「無価値なもの、あほなこと」として悪党の吐き出すようなせりふに出る。

15 イトスギ CYPRESS

英名 Cypress, Italian Cypress

和名 イトスギ（糸杉）、セイヨウイトスギ（西洋糸杉）

学名 *Cupressus sempervirens*

ヒノキ科常緑針葉の高木。細い円錐形で高さ45メートルにもなり、葉は暗黒色。死の象徴であり、葬儀や墓場を連想させる木である。

Clown Come away, come away, death,

And in sad cypress let me be laid.

Twelfth Night, 2. 4. 52

道化 来たれ、死よ来たれ

わが身をイトスギの柩に横たえよ。

『十二夜』

イトスギの小枝は棺を飾ったが、木材は家具や棺の材料になった。『じゃじゃ馬ならし』で

は、豪華なかけ布団を入れる長持ちがイトスギとある。「彼らの最高の憩いはイトスギの森であれ！」(『ヘンリー六世 第二部』)とは、この木が死の象徴であるから、呪いである。

16 イナゴマメ LOCUST

英名 Locust, Carob, St. John's Bread

和名 イナゴマメ (蝗豆)

学名 *Ceratonia siliqua*

地中海地域原産のマメ科常緑小高木。豆果は40%の糖を含み、砂糖の代用になるほど甘く、食用になる。イギリスには1570年に導入され、日本では観賞樹として温室で栽培される。宝石の質量の単位カラットは、この植物(学名ケラトニア)の豆が分銅として使用された名残といわれる。

Iago The food that to him now is as luscious as locusts, shall be to
him shortly as acerb as the coloquintida.

Othello, 1. 3. 348

イアーゴー 今イナゴマメのように甘いうまいと言ったって、すぐにコロシントリンゴみたいに苦くなるさ。

『オセロー』

オセローのデズデモーナに対する愛情は一時の情欲にすぎないからすぐ気が変わる、と説得に努める悪党イアーゴーのレトリック。砂糖の代用にもなるイナゴマメの甘さと下剤にしかないコロシントリンゴの苦さを味わった観客には、このような味覚の対比はなまなましく迫力があつたであろう。

17 イラクサ NETTLE

英名 Nettle

和名 イラクサ (刺草)

学名 *Urtica* (属)

イラクサ科の一年草または多年草。イラクサ属は約50種が主に温帯に分布する。刺毛をもつ無用有害な雑草で、葉や茎の毛に触れると赤く腫れる。しかし、古くはその繊維を利用し、若芽は食料とした。海軍大臣にもなったが日記で有名なピープスはイラクサのポリッジをおいしく食べた、と1661年の日記に書いている。

Hotspur Out of this nettle, danger, we pluck this flower, safety.

1 Henry IV, 2. 3. 9

ホットスパー この危険というイラクサからこそ、安泰という花をつみ

とることができるのだ。

『ヘンリー四世 第一部』

「虎穴に入らずんば虎児を得ず」の心意気か、「飛んで火にいる夏の虫」の無謀さか。「熱い拍車」のあだ名を地で行く熱血若獅子の独り言である。『リチャード二世』では、「敵には刺だらけのイラクサを」と、悩まし苦しめるものとして王が言及する。この刺ある雑草は狂ったオフィーリアがつくった花輪にも、狂乱したリア王の花冠にも加えられる。

18 インシチチアスモモ DAMSON

英名 Damson

和名 インシチチアスモモ (インシチチア李)

学名 *Prunus insititia*

セイヨウスモモ (*Prunus domestica*) の改良種。「Bullace (ビュレース)」と呼ばれる品種の仲間であるが両者はしばしば同一視される。低木または小高木でまれに刺を生ずる。白い花が葉とほぼ同時に開き、実は3センチぐらいで卵形 (ビュレースは球形)。15世紀には珍味扱いされていたらしい記録がある。

Simpcox My wife desired some damsons,
And made me climb, with danger of my life.

2 *Henry VI*, 2. 1. 100

シンコックス 女房がスモモを食べたいとせがみますんで、
命がけで木登りをしたわけなんです。

『ヘンリー六世 第二部』

足が不自由なのは、生来の盲目であるにもかかわらずスモモの木に登って落ちたからだ、と説明するベテンのせりふ。インシチチアスモモが出る唯一の場面だが、セイヨウスモモと区別はしていない。

19 ウイキョウ FENNEL (省略)

20 ウスベニアオイ MALLOW

英名 Mallow, Common Mallow

和名 ウスベニアオイ (薄紅葵)

学名 *Malva sylvestris*

アオイ科ゼニアオイ属。南ヨーロッパ原産の多年草で、野原や荒地に多い。茎や葉には毛があり、高さ1メートル余になる。花は淡紅色で濃色の筋が入る。雑草であるが、チーズと呼ば

れる種は子どもたちが食べ、葉もゆでれば食用になる。日本で観賞用に植えられるゼニアオイの仲間。

Sebastian Or docks, or mallows.

The Tempest, 2. 1. 145

セバスチャン それともギンギンかウスベニアオイか。

『あらし』

漂着した孤島でも、悪党どもの頭に浮かぶのは無用無益な雑草のたぐいである。しかし、このシニカルな問答の後には老顧問官の理想国論が続く。

21 エグランタイン EGLANTINE

英名 Eglantine, Sweet Brier

和名 エグランタイン、ノバラ（野薔薇）

学名 *Rosa eglanteria*

バラの原種として知られるイギリス固有のノバラで、特に南部に多い。茎や葉には刺があり、葉には芳香がある。花は6~7月に咲き、香りもない小さい単弁だが明るいピンク色。詩歌に詠まれることも多く、中世ロマンスのヒロインの名前として人気があった。シェイクスピアは多くの場合、バラをたんにバラと呼ぶだけであるが、エグランタインは品種名である。

Oberon I know a bank where the wild thyme blows,

Where oxlips and the nodding violet grows,

Quite over-canopied with luscious woodbine,

With sweet musk-roses and with eglantine.

A Midsummer Night's Dream, 2. 1. 252

オベロン 野生のタイムが咲きみだれ、オックスリップが茂り、

スマレが風に揺れている堤をわたしは知っている。

その上を甘い香りのハニーサックルや芳しいマスク・ローズ、

エグランタインが天蓋のようにおおっている。

『夏の夜の夢』

この花園は、妖精の王妃タイターニアが踊りに酔って憩うところである。イギリスの野の花の香りゆたかな色彩が地上楽園を彷彿させる。「エグランタインには悪いが、その葉の香りもおまえの息のかぐわしさには及ばない」(『シンペリン』)と仮死状態の妹を死んでいると思って悼む言葉は、このノバラの葉の香りを知っていた作者ならでのものである。

22 エゾノヘビイチゴ STRAWBERRY

英名 Strawberry, Wild Strawberry

和名 エゾノヘビイチゴ (蝦夷の蛇苺), イチゴ (苺)

学名 *Fragaria vesca*

バラ科オランダイチゴ属の野生種。多年生で実は小粒だが美味。エリザベス朝にいたるまで愛好家はこの野生種の実を採取し、その子株を庭に移植して育てていた。「義の人」「卑しい環境にある高貴な魂」のシンボルともされた。人類はイチゴを石器時代から食べていたが、日本に栽培種が紹介されたのは江戸時代末期。現在、日本の生産量はアメリカに次いで世界第二位とのこと。

Ely The strawberry grows underneath the nettle,
 And wholesome berries thrive and ripen best
 Neighbor'd by fruit of baser quality.

Henry V, 1. 1. 60

イーリー イチゴはイラクサの下でよく育ち、
 よい実は下等な果物と隣りあわせになったとき
 最もよく生長し、実ります。

『ヘンリー五世』

隣接する植物は互いに影響しあうとする通念があって、累を及ぼす悪い草木は遠ざけ、好ましい影響を与える植物を近くに植えた。しかし、イチゴは例外とされた。イチゴはイラクサのような有害な雑草の下でもよく育つ。イーリーは、無頼の徒とともに放蕩に明け暮れたプレイボーイのハル王子が立派な王となったことを、イラクサの下に実るイチゴにたとえているのである。時代が異なるから別人であるがイーリー司教の庭は有名で『リチャード三世』では、その庭のイチゴも言及される。下等な植物から悪い影響を受けないイチゴの清純さは、世の悪に染まるなど説くお説教にもよく利用された。

23 エニシダ BROOM

英名 Broom, Common Broom

和名 エニシダ (金雀枝)

学名 *Cytisus scoparius*

イギリス固有のマメ科の落葉低木。4~7月細長い枝に咲く黄色の花は、イギリス人には黄金の蝶に見えるそうだが、われわれの祖先はこの植物に「金雀枝」の漢名を与え、中国人は「金雀児」と呼んでいる。日本に渡来したのは延宝年間(1673-81)。イングランド中世の王朝プランタジネット家の呼称はエニシダのラテン語名に由来する。これは先祖の若武者が兜にエニシ

ダの一房を挿した故事に基づく。シェイクスピアの歴史劇でプランタジネット家は重要だが、3回言及されるエニシダはいずれも王家とは無関係である。

Iris And thy broom-groves,
Whose shadow the dismissed bachelor loves,
Being lass-lorn.

The Tempest, 4. 1. 66

アイリス 彼女に捨てられて恋に破れた若者が
その木陰を好むエニシダの茂み。

『あらし』

エニシダは高さ2メートルになる。恋愛の神キューピッドと縁があるとされる植物であれば、その木陰に傷心の若者が憩うのも自然というべきか。『夏の夜の夢』終幕で、パックがいく組かの新婚のカップルが寝る館を祓い清める箒 (broom) は、その語が示すようにエニシダの枝である。イギリスではエニシダの枝で箒を作っていたことを物語る。

24 エリングウム ERINGO

英名 Eringo, Sea Holy

和名 エリングウム

学名 *Eryngium maritimum*

ヨーロッパ原産、セリ科の多年草。高さ40~60センチになり、7~8月に球状の青か紫色の花が咲く。全姿はアザミに似るが、葉はその先端が刺になってヒイラギに似るので「シーホーリー (海柊)」の異名がある。この植物の根を材料にしたキャンディは催淫剤として重宝された。

Falstaff Let the sky rain potatoes; let it thunder to the tune of
"Green-sleeves," hail kissing-comfits, and snow eringoes.

The Merry Wives of Windsor, 5. 5. 20

フォールスタッフ イモの雨が降るがいい、扇情歌に合わせて雷がひびく
がいい、砂糖漬の霰が降るがいい、エリングウム剤を雪と降らせ。

『ウィンザーの陽気な女房たち』

陽気な肥満騎士フォールスタッフ人妻二人と同時逢引きの場。当時、サツマイモも珍味で、エリングウムと同じように媚薬効果があるとされた。砂糖漬はキス用の口臭消し。「興奮のあらし吹きまくれ、おれはここにかくれる」と人妻に抱きつく好色騎士の結末はいかに？

25 エンドウ PEAS

英名 Pea, English Pea, Common Pea

和名 エンドウ (豌豆)

学名 *Pisum sativum*

マメ科の耐寒性ある一年草で、古代ギリシア時代より栽培された。イギリスにはエリサベス朝にオランダから導入され、日本には十世紀ごろ中国からもたらされた。peas, pease は1600年ごろまで単数形であった。

Iris Ceres, most bounteous lady, thy rich leas
Of wheat, rye, barley, fetches, oats, and pease.

The Tempest, 4. 1. 61

アイリス シーリーズ、豊饒の女神よ、あなたの豊かなる土地には
小麦、ライ麦、大麦、大鳥の豌豆、烏麦、豌豆。

『あらし』

牧草である大鳥の豌豆を除けばすべて人間にとって重要な穀物であるが、豌豆もその一つ。牧草とて牧畜に欠かせない家畜の食物。この詩行は、愛の契りを言祝ぐために五穀豊饒の神を招く歌の冒頭である。人間の長い歴史においては、食べ物が豊かになることが幸福の条件であった。ふつうの人々には、飽食、ダイエットなどは世界の一部に現れたごく最近の現象にすぎない。

26 オウシュウニレ ELM

英名 English Elm

和名 オウシュウニレ (欧州榆)

学名 *Ulmus procera*

高さ30メートルをこえる落葉高木。ヨーロッパ西部および南部に分布する。イギリスには古代ローマ人がもたらしたようだが、至るところに見られる大木である。シェイクスピアが生まれ育ったストラトフォードは、ニレの葉が美しく茂る町。1582年の調査によれば、ニレは町有地だけでも千本近くあった。日本には明治中期に渡来。

Adriana Thou art an elm, my husband, I a vine,
Whose weakness, married to thy stronger state,
Makes me with thy strength to communicate.

The Comedy of Errors, 2. 2. 174

エドリアーナ あなたはニレの木、わが夫、わたしはツタ
その弱さは、強いあなたに夫婦の絆で結ばれてこそ、
あなたの強さをわけてもらえるのです。

『間違いの喜劇』

ツタがニレの大木にからみつく自然現象はイギリスではふつうではないようだが、シェイクスピアは古典作家の例にならって、男をニレ、女をツタにたとえている。『夏の夜の夢』では、ほれ葉をぬられた妖精の王妃タイターニアが、機織り職人のボトムに求愛するなまめかしいせりふでも言及され、また、スペンサーやミルトンもこの伝統的イメージを用いている。

27 オウシュウヤドリギ MISTLETOE

英名 Mistletoe

和名 オウシュウヤドリギ (欧州寄生木), セイヨウヨドリギ (西洋寄生木)

学名 *Viscum album*

常緑寄生植物。ヨーロッパ、アメリカに多く自生する。一見、根もないように見えながら、樹木に寄生して茂るこの植物は、古くから驚異と畏怖の対象であった。まつわる俗信も多いが、クリスマスのヤドリギの飾りの下では、女性にキスすることが許される習慣もある。

Tamora The trees, though summer, yet forlorn and lean,
Overcome with moss and baleful mistletoe.

Titus Andronicus, 2. 3. 95

タモーラ 夏だというのに、樹木はわびしくやせこけている、
苔やおぞましいヤドリギがはびこって。

『タイタス・アンドロニカス』

密会の場となり、また殺戮暴行の修羅場ともなる陰気な木陰。その樹木はまがまがしい苔やヤドリギに食いものにされている。神秘不可解とされた植物の下、人間の野獣性が発揮される。

28 オオカラスノエンドウ FETCH

英名 Common Vetch

和名 オオカラスノエンドウ (大鳥の豌豆)

学名 *Vicia sativa*

マメ科ソラマメ属の1~2年草。4~5月に紅紫色の花を咲かせる。イギリスには古代ローマ人が導入したといわれる。カラスノエンドウに似るが、それよりやや大きい。日本には大正時代に渡来。引用は25 エンドウ参照。

オオカラスノエンドウにはカラスノエンドウなど近縁種の雑草が多いが、オオカラスノエンドウは飼料や土地改良のため栽培される有用植物である。

29 オオムギ BARLEY

英名 Barley

和名 オオムギ (大麦)

学名 *Hordeum vulgare*

イネ科の越年草。イギリスではビールの原料として栽培され「ビール麦」とも呼ばれた。製パンには適しないにもかかわらず、昔は庶民が食べるパンの材料にもなった。小麦のパンは贅沢品であった。今日では、世界の生産量はコムギ、イネ、トウモロコシにつぐ。

Constable Can sodden water,
A drench for sur-rein'd jades, their barley-broth
Decoct their cold blood to such valiant heart?

Henry V, 3. 5. 19

軍司令官 あの沸騰させた水
くたびれた馬の薬、つまり、やつらの大麦ビールなんかで
やつらの冷たい血をわかせて奮い立たせることができるでしょうか？

『ヘンリー五世』

攻め来るイギリス軍を愚弄するフランスの軍司令官。精気をつけるフランスのワインと「げすの飲む」イギリスの大麦ビールを対照している。敵国民の属性（この場合は飲み物）を貶すことで敵国民を見下す戦時のレトリックの常套である。「くたびれた馬」は「くたびれた軍隊」の蔑称である。

30 オーク OAK (省略)

31 オートムギ OAT

英名 Oat

和名 オートムギ (麦), エンバク (燕麦), [カラスムギ (烏麦)]

学名 *Avena sativa*

イネ科カラスムギ属の一年草または越年草。食料や家畜の飼料として栽培される。「カラスムギ」とも呼ばれるが、カラスムギは近縁の野生種を指す名称として区別される。オートミールにされ、ウィスキーの原料、菓子材料となる。原産地は中央アジア、アルメニアといわれている。

1. Carrier Poor fellow never joy'd since the price of oats rose,
it was the death of him.

1 Henry IV, 2. 1. 13

人夫1 かわいそうに、あいつオートムギが値上がりしてからは大変
だったもんな。死んじゃったのもそのせいだけ。

宿屋の馬番が死んだのはオートムギの値上がりがもとである、とロチェスターの宿屋で人夫が話している。家畜で生計を立てる人々が、飼料の高騰によって窮地に追い込まれるのは、今に始まったことではない。

ジョンソン博士は『英語辞典』で、オートムギを「イングランドでは馬の飼料、スコットランドでは人間の食物」と定義して面白がった。もっとも、この有名な定義にはスコットランド人の落ちがつく——「だから、イングランドでは馬が立派、スコットランドでは人間が立派」。

32 オニオオバコ PLANTAIN

和名 オニオオバコ (鬼大葉子, 鬼車前草), セイヨウオオバコ (西洋大葉子, 西洋車前草)

英名 Plantain, Common Plantain

学名 *Plantago major*

オオバコ科の多年草。ヨーロッパ、アジアの原野、道端に根強くはえる雑草であるが、古くは傷薬としてだけでなく、胃腸、頭痛など多くの病気にきく万能薬とされた。

Romeo Your plantain leaf is excellent for that.

Romeo and Juliet, 1. 2. 51

ロミオ それには例のオオバコの葉が妙薬だ。

『ロミオとジュリエット』

ロミオの片思いの苦しみを癒す術を語る友人にロミオは反撥する。あっけにとられる友にロミオはオオバコがすねのかすり傷にきくと説明する。だれでも知っている雑草の効能を口にしてはいるのだが、自分の心の傷はオオバコでは処置なしの大きく深い傷である、と言いたそうである。シェイクスピアが取り上げるオオバコは傷薬に限定されている。

33 オリーブ OLIVE (省略)

34 オレンジ ORANGE

英名 Orange

和名 オレンジ

学名 *Citrus sinensis* (*C. aurantium* インド原産)

ミカン科の常緑果樹。イギリスでは1595年、はじめて植栽されたとされるから、シェイクスピアも南国原産の黄金色の実がなる木を見る機会があったかもしれない。

Claudio Give not this rotten orange to your friend,

She's but the sign and semblance of her honor.

Much Ado about Nothing, 4. 1. 32

クローディオ この腐れオレンジを友人にお返しにならぬよう、
お嬢さんの貞潔は見てくれのうわべだけだ。

『空騒ぎ』

腹黒い不満家にだまされた実直ナイーブな貴族が、婚礼の場でその花嫁を罵倒する。「腐れオレンジ」の意味はそれに続く一行で説明されている。オレンジは昔、裕福な階級しか食べられないぜいたくな果物だったから、花嫁のすばらしさが高級品のイメージで表されている。もっとも、花婿は、高級品のイメージはうわべだけで中身は腐っている、とんだ食わせ者だと抗議している訳である。シェイクスピアは、オレンジの色についてはほかに言及があるが、花の清らかさや果実のおいしさは言葉にしていない。

35 カーネーション CARNATION

英名 Carnation, Gilliflower

和名 カーネーション, オランダセキチク (石竹)

学名 *Dianthus caryophyllus*

ナデシコ科の多年生観賞植物。赤、白、ピンクなど、花はきれいが香もよい。古代ギリシア・ローマの昔から愛されてきた。今日、園芸品種は多種多彩。キリストの最後を見送ったマリアの落涙のあとに生じた花とする伝説があり、それがこの花を母性愛のシンボルとし、今世紀になって「母の日」の花にした。

Perdita The fairest flow'rs o' th' season
Are our carnations and streak'd gillyvors.

The Winter's Tale, 4. 4. 82

パーディタ この季節の一番美しい花は、カーネーションと縞石竹です。

『冬物語』

羊飼いの娘として育てられた王女パーディタは、カーネーションをほめ讃える。しかし、その変種である縞石竹は美しさは認めても、拒絶する。人工的に交配させてつくった「私生児」だからというのである。話題は、作品の主要なテーマである人工と自然の問題へと進んでいく。私生児として捨てられた（パーディタという名前も「捨てられし者」の意）王女が、花の女神（フローラ）のイメージに包まれて乙女の潔癖さで花の美を語る。

36 カブ TURNIP

英名 Turnip

和名 カブ (蕪)

学名 *Brassica rapa*

アブラナ科の二年生草根菜。ハクサイ、キャベツなどと同属。イギリスには古代ローマ人が導入したようだが、農場での栽培は18世紀になってから。

Anne Alas, I had rather be set quick i' th' earth,
And bowl'd to death with turnips!

The Merry Wives of Window, 3. 4. 87

アン ああ、いやだ。むしろ大地に生き埋めにされて
カブでたたき殺されたほうがいいわよ！

『ウィンザーの陽気な女房たち』

相愛の恋人がいるのに母親にいやな男との結婚をすすめられて、娘は気が立つ。「カブでたたき殺される」とは奇抜な発想だが、シェイクスピアの時代にはカブはすでに広まっていたようだ。

37 カラクサケマン FEMETARY, FEMITER

英名 Fumitory

和名 カラクサケマン (唐草華鬘)

学名 Fumaria (属)

ケマンソウ科カラクサケマン属の総称。手入れ不十分な農地や荒地に群生する一年生の野草。葉はパセリに似て、花は紫がかったピンクで美しいが、シェイクスピアには荒廃を表す雑草であった。

Cordelia Crown'd with rank femiter and furrow-weeds.

King Lear, 4. 4. 3

コーディーリア 頭にはのび放題のカラクサケマンや畑の雑草。

『リア王』

娘たちに虐待されて狂ったリアの頭を飾るのは今や王冠ならぬ雑草の冠。これは、キリストの受難を思わせるリアの「イバラの冠」にほかならないが、その雑草の一つがカラクサケマンである。穀物の大敵とされたこの雑草に憂鬱症に効く効果があると信じられていたことを思えば、王の受難、狂乱が正気、開眼をもたらす劇のアイロニーにも通ずることが分かる。

38 ギシギシ DOCK

英名 Dock

和名 ギシギシ (羊蹄)

学名 Rumex (属)

タデ科ギシギシ属の植物の総称。同属のスイバやスカンポと似ている多年生の雑草。下剤に

使用された種類もある。繁殖力旺盛で、農作物に有害な雑草。

Sebastian Or docks, or mallows.

The Tempest, 2. 1. 145

セバスチャン それともギシギシかあるいはウスベニアオイか。

『あらし』

難破して絶海の孤島に上陸した宮廷人たち。いかなる場合にも希望を失わない老人がこの島を理想郷にしたいと口を開くと、悪党どもにまぜっ返される。蒔くのはギシギシかウスベニアオイの種かと。ウスベニアオイは現在は観賞用に植えられるが、ここではギシギシ同様にやっかいな雑草である。

39 キショウブ FLOWER-DE-LUCE (省略)

40 キダチハッカ SAVORY

英名 Savory, Summer Savory

和名 キダチハッカ (木立ち薄荷), セボリー

学名 *Satureja hortensis*

シソ科一年生のハーブ。地中海沿岸地方の原産。7月ごろ、白から赤紫色の花をつける。全草に香りがあり、料理の風味を引き立て、その製油はソセージなどの香りづけになる。

Perdita Here's flow'rs for you:

Hot lavender, mints, savory, marjorum.

The Winter's Tale, 4. 4. 104

パーディタ 皆さんにお花を、

香りりの高いラベンダー、ミント、セボリー、マージョラム。

『冬物語』

セボリーはシェイクスピアの時代にはたいへん人気があったハーブで、アメリカに移住したイギリス人が、故郷の香りとして大陸へ導入した植物のリストにも入っている。羊飼いの娘として育てられた王女パーディタが、美しい乙女に成長して花のいろいろを差し出す。その花づくしの冒頭に出る四つはすべて芳香性の高い真夏の花であるが、これは人生の真夏、すなわち中年の方々に上げると言う。

41 キバナノクリンザクラ COWSLIP (省略)

42 キノコ MUSHROOM, TOADSTOOL

英名 Mushroom, Toadstool

和名 キノコ (茸), マッシュルーム

学名 Agaricus (属)

ハラタケ科のキノコ。昔は Toadstool (毒キノコ) なども含めてキノコ一般を総称した。食用種は牧草地や芝生などに夏から秋に自生するが、現在、世界各地で栽培されている。

Prospero You demi-puppets that
 By moonshine do the green sour ringlets make,
 Whereof the ewe not bites; and you whose pastime
 Is to make midnight mushrumps.

The Tempest, 5. 1. 39

プロスペロー 雌羊たちも食べない
 酸っぱい緑の草の輪を月の夜につくる小妖精たち、
 真夜中にキノコづくりに興ずる者たちよ。
 『あらし』

プロスペローはいまや駆使した魔法の力を放棄せんとするするが、彼は力をかした妖精たちに語りかける。キノコは成長が早く一夜にして大きくなるが、それは妖精のなせる業であると思われていた。また、牧草地などにできる草の輪も、実際はキノコ類の作用であるが、これも妖精たちが踊り回った跡であると信じられていた。その輪を「妖精の輪」と呼んだ。

43 キャベツ CABBAGE

英名 Cabbage

和名 キャベツ, カンラン (甘藍), タマナ (玉菜)

学名 Brassica oleracea Var. capitata

アブラナ科のおなじみの野菜。結球キャベツがヨーロッパに広がったのは13世紀ころで、シェイクスピアもわれわれが食べるようなキャベツを食べたようだ。日本には安政年間(1854~60)に導入されたが、普及したのは明治になってから。

Evans *Pauca verba*; Sir John, good worts.
Falstaff Good worts? good cabbage.

The Merry Wives of Windsor, 1. 1. 121

エヴァンズ 寡言に、サー・ジョン。いい言の葉で。
フォルスタッフ いい言の葉で? いいキャベツだ。

『ウィンザーの陽気な女房たち』

相手の言葉じりをとらえて駄洒落で打ち返すフォルスタッフ独特の遁辞。「言の葉」と訳した語はウェールズなまりで「野菜の葉」と発音されている。これをフォルスタッフはあげつらって馬鹿にし、野菜の代表キャベツを持ち出しているが、これには、お前の頭はキャベツなみという意味も含ませているようだ。

44 キンセンカ MARIGOLD (省略)

45 ギンバイカ MYRTLE (省略)

46 キンボウゲ CROW-FLOWER

英名 Buttercup, Crowfoot

和名 キンボウゲ (金鳳花), ウマノアシガタ (馬の足形)

学名 *Ranunculus acris*

キンボウゲ科の多年草。キンボウゲ属には約500種あるが Common (または Meadow) Buttercup (*R. acris*) が代表種。4~9月に黄色のカップ状の花でイギリスの山野を彩る。「ウマノアシガタ」とも呼ばれているが、日本のウマノアシガタは代表種の近縁。

Queen Therewith fantastic garlands did she make
 Of crow-flowers, nettles, daisies, and long purples.

Hamlet, 4. 7. 169

王妃 柳の枝にキンボウゲ、イラクサ、ヒナギクを添えた
 風変わりな花冠をつくり...

『ハムレット』

オフィーリアの花冠を飾った Crow-flower はセンノウ (Ragged Robin) であるとする説も有力であるが、ここではキンボウゲと仮定しておく。イギリス人に強い郷愁をもよおさせるキンボウゲには毒性がある。そのためか、この花は気を触れさせるともいわれ「狂花」の俗名もあった。また、刺のあるイラクサとともに「苦しみ」とも関係づけられていた。乙女の頭に添えられた野草は苦悩と狂気を表す記号である。

『恋の骨折り損』(5.2.896) の cuckoo-bud (この名称は現在はハナタネツケバナを指す), 『リア王』(4.4.4) の cuckoo-flower もキンボウゲであるとする意見がある。

47 クリスマム SAMPIRE

英名 Samphire, Rock Samphire

和名 クリスマム

学名 *Crithmum maritimum*

セリ科クリスмум属の一属一種の多肉草。ヨーロッパの海岸の岩間などに生える。葉は香ばしくピククルにされた。

Edgar Half way down
Hangs one that gathers sampire, dreadful trade!

King Lear, 4. 6. 15

エドガー 崖の中途にしがみついて
クリスмумを採っている男がいる。危ない仕事だなあ!

『リア王』

所はドーバーの絶壁。信頼していた息子に裏切られ、両眼をえぐり取られてはじめて真相を知ったグロスター伯爵は、絶望して投身自殺をはかる。絶壁の上から下を見れば目がくらみ、人間の体も頭ぐらいの大きさにしかみえないと、状況を描写しているのは勘当されながらも変装して父を助ける孝子エドガーである。シェイクスピアの時代にはクリスмумはよく利用された。本草学者のジェラードも、肉料理とあい、美味かつ健康にもよいとすすめている。

48 クロガラシ MUSTARD

英名 Mustard, Bluck Mustard

和名 クロガラシ (黒芥子), マスタード

学名 *Brassica nigra*

地中海沿岸を原産地とするアブラナ科の一年草。古代ギリシアの昔からその実を乾燥させて香辛料とした。

Grumio What say you to a piece of beef and mustard?

The Taming of the Shrew, 4. 3. 23

グルーミオ 牛肉にマスタードはいかがですか?

『じゃじゃ馬ならし』

グルーミオは腹を空かしているキャタリーナにごちそうのあれこれを言っ、結局なにも食べさせない。彼はじゃじゃ馬のキャタリーナと結婚した乱暴男ペトルーチオの召使いである。牛肉にマスタードは好物と、キャタリーナが舌なめずりをして答えれば、マスタードは刺激がきつすぎるとはぐらかす。主人の命でじゃじゃ馬をならすくだりだが、この程度はまだ序の口。

49 クローバー CLOVER

英名 Clover

和名 クローバー, ツメクサ (詰草)

学名 *Trifolium* (属)

マメ科の一年草または多年草。牧草に利用される。アカツメクサ、シロツメクサが代表種。古くから「希望」の象徴であり、三枚の葉があるのでキリスト教では三位一体を表す。四枚葉は幸運の印。

Burgundy The even mead, that erst brought sweetly forth
That freckled cowslip, burnet, and green clover,
Wanting the scythe withal, uncorrected, rank.

Henry V, 5. 2. 49

バーガンディ ならかな牧草地には、かつては
まだらのカウスリップ、ワレモコウ、緑のクローバーが美しく咲い
ていましたが、今や鎌も入れられず、手入れもされずに、荒れはて
ています。

『ヘンリー五世』

フランスに対するイギリスの主権を要求してヘンリー五世は出兵する。英仏両軍の血みどろな戦争によって荒廃した国土を嘆くフランスの貴族のせりふであるが、カウスリップ、ワレモコウ、クローバーが咲いた牧草地に言及して失われた平和の世を語っている。カウスリップ(キバナノクリンザクラ)は牧場に多い。ワレモコウはイギリス経験主義の祖ベーコンも愛した牧草であり、クローバーは古くから吉草、霊草とされ、また羊の好物でもある。荒地となったフランスを嘆いて、このような牧草地を彩る草花のいろいろを追懐し、バーガンディは、平和と調和の到来を期している。その期待は、シェイクスピアが愛でた平和な故郷ウォリックシャーの風光と重なるものであったであろう。

50 クワ MULBERRY

英名 Mulberry, Black Mulberry

和名 クワ(桑), クロミグワ(黒実桑)

学名 *Morus nigra*

クワ科の落葉低木または高木。コーカサス原産のクロミグワと東アジア原産のトウグワがあるが、ヨーロッパには古代に伝わり、イギリスでも中世から植栽されていたのはクロミグワである。日本のクワは主に養蚕用であるが、イギリスでは庭園を飾る観賞用が多く知られる。

Titania Feed him with apricocks and dewberries,
With purple grapes, green figs, and mulberries.

A Midsummer Night's Dream, 3. 1. 167

タイターニア お食事にはアンズとデューベリーをさしあげて、
紫のブドウに緑のイチジク、そしてクワの実も。

『夏の夜の夢』

妖精の王妃タイターニアが恋人をもてなすメニューである。ヴィーナスが片思いをした美少年アドーニスには小鳥がクワの実やサクランボをもって来てくれた（『ヴィーナスとアドーニス』）。シェイクスピアではクワはおいしい木の实である。劇作家が故郷で購入したニュー・ブレイスと呼ばれる屋敷の大きな庭の奥には今も一本のクワの木がそびえている。その実は食べてみたが、たしかにおいしかった。この木はシェイクスピア自身が植えたと言われるクワの枝の末代であるといわれている。お手植えの木そのものは1758年、当時の所有主が切り倒した。その木を材料として記念品が大量に作られ売り出されたが、他のクワの木も何本かシェイクスピアのクワにされたようである。

（未完）

（原稿受理 1994年4月18日）